

報道関係各位
プレスリリース

2007年 6月 15日
アート・ドキュメンテーション学会
会長 高山正也

公開シンポジウム「発現するドキュメンテーション蓄積と検索から表現へ」開催

アート・ドキュメンテーション学会（略称：JADS、会長 高山正也、東京都）は、6月23日（土）～24日（日）に国立新美術館（東京都港区）と共催で同館において、公開シンポジウム「発現するドキュメンテーション 蓄積と検索から表現へ」を開催いたします。

本シンポジウムは第18回となるJADS年次大会の一環として行われ、プログラムは各パネリストの講演を含むシンポジウム、パネルディスカッション、公募研究発表のセッションで構成されます。参加者は学芸員、司書、大学教員、大学生、大学院生、情報技術者などを想定していますが、ミュージアムの利用者など一般の参加も歓迎します。

本日現在、参加申込者数は170名となっています。最終的に200名ほどの参加者を見込んでいます。

年次大会のご案内

アート・ドキュメンテーション学会 2007年度(第18回)年次大会
2007 Annual Conference of JADS: Japan Art Documentation Society

シンポジウム

発現するドキュメンテーション 蓄積と検索から表現へ
Documentation as apparition: from storage and retrieval to 'expression'

主催:アート・ドキュメンテーション学会/国立新美術館

6月23日（土）シンポジウム[第53回研究会] 於、3階講堂

6月24日（日）公募研究発表会[第54回研究会] 於、3階研修室

第18回（2007年度）総会 於、3階研修室

国立新美術館情報資料関連施設見学会[第39回見学会]

■詳細・申込み>> <http://www.jads.org/>

収集し組織化してクエリー（query、問い合わせ）を待つ、クエリーが投げかけられなければ、動かない。動き出さないデータベース、ではなく、集積され組織化されるもの、それ自体総体が、自ら発現し表現をめざすようなドキュメンテーション。観る者が、集積の個々と全体を把握しつつ感応できるようなドキュメンテーション、は可能か、意味はあるか。2007年1月誕生の5番目の国立美術館、国立新美術館において、アート・ドキュメンテーションのあらたな可能性に向けて「発現(apparition)」をキーワードにシンポジウムを開催いたします。

プログラム

6月23日(土) [開場 13:00] 3階講堂

13:30-13:45 主催者挨拶:国立新美術館 館長 林田英樹

アート・ドキュメンテーション学会 会長 高山正也

シンポジウム 発現するドキュメンテーション 蓄積と検索から表現へ

[JADS 第53回研究会]

13:45-14:00 イントロダクション/水谷長志:独立行政法人国立美術館情報
企画室長

14:00-14:30 ●安齋 利洋:システムアーティスト

「カンブリアンゲーム——作動するテキスト」

14:30-15:00 ●前田富士男:慶應義塾大学文学部教授、同大学アート・セン
ター所長

「メタファーとカップリング——アート・アーカイヴにおける時空間」

15:00-15:30 ●丸川 雄三:国立情報学研究所特任准教授、独立行政法人国立美術館情報企画室客員研究員
「連想がつなぐ文化財の情報発信」

15:30-16:00 ●金子 郁容:慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、同大学湘南藤沢メディアセンタ
ー所長

「想起する街—図書街プロジェクト」

16:00-16:30 休憩

16:30-17:30 パネルディスカッション

司会 :水谷長志

パネリスト:安齋利洋、前田富士男、丸川雄三、金子郁容

17:30 閉会

18:30 懇親会

6月24日(日) [開場 9:30] 3階研修室

10:00 公募研究発表会[JADS 第54回研究会]

14:30 国立新美術館情報資料関連施設見学会[JADS 第39回見学会]

15:30頃 散会

□独立行政法人国立美術館 国立新美術館

<http://www.nact.jp>

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

東京メトロ千代田線乃木坂駅 6 出口 (美術館直結)

東京メトロ日比谷線六本木駅 4a 出口から徒歩 5 分

都営地下鉄大江戸線六本木駅 7 出口から徒歩 4 分

■詳細・申込み アート・ドキュメンテーション学会HP

<http://www.jads.org/>

【6/15 まで】にお申し込み下さい

■参加費 資料代 1,000 円 (会員は無料)

【ドキュメンテーションとは】

博物館・美術館＝ミュージアムにおけるドキュメンテーションとは、収蔵品についてその存在と意味の証拠を揃えて情報記録を作成・管理することで、作成された情報は収蔵品台帳などの形式で管理されます。一般利用者からは見えにくい活動ですが、例えば展示品に添えられたり、展覧会カタログに記載される、資料番号、作品名、作成者、時代などの情報は、ドキュメンテーション活動により裏付けされるものであり、展示や研究教育などミュージアムの主要な機能を支えています。

【アート・ドキュメンテーション学会（JADS）とは】

図書館、美術館・博物館、美術研究機関、関連メディア、及びこれらに関係あるものの連絡・連携のもとに、わが国、さらには国際間における、アート・ドキュメンテーションをめぐる諸問題の解決と進展に寄与することを目的としています。

1989年4月に発足、1999年には日本学術会議の第18期登録学術研究団体（情報学及び芸術学）、2005年には協力学術研究団体となっています。

現在、図書館司書、学芸員、美術史研究者、マスコミ関係者、コンピュータ技術者等、約300名の正会員と学生会員が参加しており、図書館、美術館等の従来の枠組みを越えて、職能を横断する新しいタイプの研究グループといつてよいでしょう。

いわゆる、美術図書館の諸問題を中核としながら、画像データベースの構築等、広い分野で応用可能な課題に取り組んでいます。

なお、機関、団体でも加入できる賛助会員の制度もあり、現在約30機関が登録しています。

JADS : Japan Art Documentation Society

【本プレスリリースに関する問合せ】

アート・ドキュメンテーション学会役員／年次大会実行委員 広報担当：山本

所属：早稲田大学演劇博物館

169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

TEL : 03-3203-4151 内線 5937

E-mail : ymmt@waseda.jp

※問合せはできるだけ E-mail でお願いします

※取材内容は今回のシンポジウム及びアート・ドキュメンテーション学会に関することに限らせていただきます。国立新美術館への取材については、美術館の広報担当者が窓口となります。

[jadspr1-070615]

以 上